

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

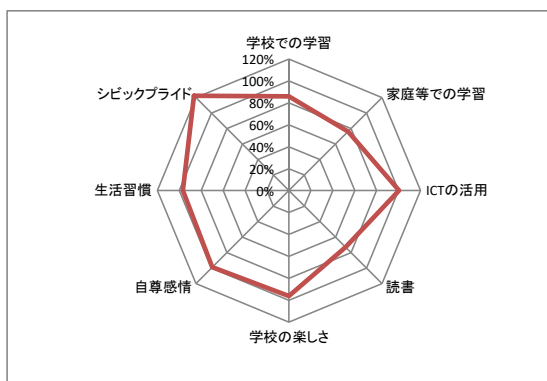
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	記述式で出題された問題は、県、全国の平均正答率よりも上回っており、自らの考えや文章を要約し発信する能力は備わっていると考えられる。しかし、基本的な知識・技能の問題については課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	聞き取り内容をまとめる問題・文章内容を理解し、自分の考えを広げたり深めたりする問題	
	努力が必要な問題	見るポイントを絞って文章を比較し、言葉の持つ意味について考える問題・効果的な質問方法を考える問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	どの分野においても、全国平均や県平均正答数を下回る結果となっている。しかし、基本的な計算を問う問題に関しては、全国平均や県平均正答数と同水準の正答率であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	基本的な計算についてを問う問題	
	努力が必要な問題	累積度数を使用する問題・四分位範囲表を使用する問題・表やグラフの読み取り問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	県平均正答数を上回る問題もあり、聞き取りに関する問題は全国平均や県平均正答数に近い正答数である。基本的な知識・技能の問題については課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要な内容を理解し、聞き取る問題・情報を正確に聞き取る問題	
	努力が必要な問題	文章の読解力を問う問題・文法の応用問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年時の授業でICTの使用率が高く、ICTが学習に役に立つと考えている生徒が90%以上である。しかし、ICTを家庭学習で利用している生徒は少ない。 ・ シビックプライドに関する肯定的な回答が非常に高いため、各学習教材に郷土を利用した学習資料を使用すると学びに対する興味や関心が高まり、学習意欲の向上につながると考えられる。 ・ 家で、自分で計画を立てて勉強している生徒や、家で学校の宿題をしている生徒は全国平均を下回っている。そのため、学校の授業時間以外での勉強時間も全国平均を下回っており、習慣的に勉強に取り組む姿勢が身に付いていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎的な知識、技能の習得に向けて、ICTを使った効果的な朝自習や家庭学習を習慣化させるよう取組んでいく。また、活用方法や学習の行い方などを生徒に具体的に示すことで、生徒の自主的な活動を支援していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の時間の向上や読書の時間の向上のために、各家庭での携帯、スマホのルール作りや、適切な活用方法への啓蒙活動を通信や掲示等で工夫して取り組んでいく。